



2020 年度
第 21 号

体育市民連帯 ニュースレター

故崔スクヒョン選手の

ご冥福を祈ります。

事件の真相究明と

加害者に対して

厳重な後続措置を

要求することに

賛同して下さい。

1 彼らの罪を明らかに

故崔スクヒョン選手の最後の
要請に答えるために集まった
スポーツ/市民団体の記者会見



2 殴打、過酷な行為

誰も崔スクヒョンを
助けなかった



3 一足遅い体育会

SOS ずっと傍観、今になって
出てきた慶州市、大韓体育会



4 文化体育観光部

故崔スクヒョン選手事件、
崔ユニ団長特別調査団の構成



5 関連記事



<01 記者会見文>**【 彼らの罪を明らかにして欲しい 】**

今日、我々はあまりに惨憺たる思いでこの場に立ちました。数十年繰り返されているスポーツ界の人権蹂躪と暴力のカルテルの中で、ついに大切な命が私たちのもとを離れました。「彼らの罪を明らかにして欲しい」という最後の言葉を投げるまでに、故崔スクヒョン選手が苦しんだ痛みの前に、言葉を失いました。すみません。申し訳ありませんとしか言う言葉がありません。それでも心と体をまっすぐ立てて約束します。今度は絶対にただでは済まさない。再びこのような人権蹂躪が再発しないようにすると。

崔選手が私たちのもとを離れるまでどのくらいの「社会的機会」があったのでしょうか。大韓体育会スポーツ人権センター、トライアスロン協会、慶州市役所や慶州警察署までどこか崔選手を保護し、真相究明のために適切に実効性をもって動いたところがありません。体育人出身の次官が赴任した文化体育観光部は、これまで何が変わったのでしょうか。2019 年の趙ジェボム性暴行事件からここ数十年の間に何度も繰り返していた暴力・性暴力事件の処理過程まで。いつも徹底した調査と再発防止を約束し、体育界の変化を言いました。その約束が正しく守られていたら崔選手のような悲劇は免れたのです。文化体育観光部と大韓体育会をはじめとする関係機関の痛烈な反省と責任ある態度と回答が伴わなければなりません。

今回の事件は崔選手の監督とチームドクター、そして先輩選手の違法で反人権的な行為から始まったものです。しかし、その根源には「成績至上主義」「勝利至上主義」という、より根本的な問題が潜んでいます。種目や年齢、性別、分野を問わず、数十年の間に継続的に繰り返されてきたスポーツ界の人権蹂躪は成績とメダル、勝利という名分に包まれて温存してきました。成績のためなら指導者の暴行と強圧的な訓練、軍隊を彷彿とさせる位階的服従的な文化、外部と遮断された合宿訓練など、すべてがもみ消しされ隠蔽され縮小されてきました。尻尾切り式捜査と軽い処罰、守られない再発防止の約束が繰り返されてきました。いくら加害者を厳罰とし強力な被害者保護システムを構築するとしても、それはその場しのぎに過ぎません。成績至上主義とそれを維持させるスポーツ界の構造とパラダイムが変わらない限り、スポーツ界の人権蹂躪は根絶することができないでしょう。

昨年スポーツミートゥー以降、ムン・ジェイン大統領の「スポーツ界の人権侵害に対する根絶策を用意せよ」（青瓦台首席・補佐官会議の冒頭発言、2019. 1. 14.）という指示に基づいて文体部などの政府機関と民間の専門家が参加したスポーツ革新委員会が発足しました（2019. 2. 11～2020. 2. 10）。革新委は7回にわたる勧告を通して被害者保護と人権侵害対応システムをはじめ、学校体育の正常化とエリート体育の改善、そして大韓体育会などの体育団体の構造改編案など、韓国スポーツの新しいパラダイムを提示しました。しかし大韓体育会は終始一貫してこれを無視し反対し履行しなかったし、これを管理監督する文体部もまた、その責任を果たさなかったことで今日の悲劇を防ぐことができませんでした。

今日この場に集まった私たちは、「彼らの罪を明らかにして欲しい」という故崔スクヒョン選手の要請に、遅ればせながらも固く誓いたいと思います。今回の事件について徹底した調査と共に、体育界暴力のカルテルを断ち切って、メダルと成績ではなく人権と幸福を追求するスポーツ界の根本的な構造変化のために、次のことを促します。

第一に、徹底した真相調査と責任者の処罰を確実にする必要があります。多くの前・現役選手たちの証言に

もかわらず、まだ加害者は苛酷な行為を否認しており、チームドクターと呼ばれる資格不明の人物は行方をくらましました。恐ろしい人権侵害の実態はもちろん、崔選手を絶望させた被害者保護機関と関係者の対応、隠蔽の試みや2次加害、事件発生後の報告有無、体育団体長の対応と責任、被害者の権利救済システムなど、すべての問題が隠さず明らかにされなければなりません。また、加害者には厳正な処罰が、被害者には2次加害から保護されて、その後も生活や運動を継続することができる環境が提供されなければなりません。

第二に、大韓体育会と文化体育観光部は真相調査の主体になることができません。むしろ、調査対象にならなければなりません。何もせずこの事態を放置してきたし、最終的には崔選手を死まで至らせた彼らに真相調査を任せることは不合理です。しかも事件が起こって以来、今日まで見せた認識の限界と庇護などを見ると、現在議論されている真相調査団は主体が変わらなければなりません。加害者とその周辺の人、大韓体育会などの体育団体の関係者の影響力を遮断できる独立した信頼できる専門家で構成する必要があります。

第三に、大韓体育会李ギフン会長はすぐに辞退すべきです。昨年趙ジェボム性暴力事件の後、国民の辞退要求にもかかわらず、「変化を引き出す」として続投したことをはっきり覚えています。故崔スクヒョン選手が2月、警察告訴に続いて体育会スポーツ人権センターに苛酷な行為を申告した時点が4月8日です。これまで大韓体育会は果たして何をし、李ギフン会長はどんな処置を執ったのでしょうか。彼が約束した変化はどこにあったのでしょうか。スポーツ革新の変化を眠らせ時代逆行的な歩みにふける李ギフン会長は今年の趙ジェボム性暴力事件と今回の事態で責任を負ってすぐ辞退すべきです。そして罪滅ぼしの気持ちで真相調査団の調査に誠実に取り組むべきです。

第四に、文化体育観光部は責任を負う姿勢を示すべきです。趙ジェボム性暴力事件と今回の事態をはじめ、スポーツ界の幅広い人権蹂躪が何十年も持続するように放置してきた責任を痛感してスポーツ界の構造と制度改革を実施しなければなりません。スポーツ革新委の勧告を履行するとしていた厳重な約束を揺れることなく実行していくことを促します。

第五に、新たに発足した21代国会に要求します。国民の声を盛り込んで反映すべき国会はこの間、有毒スポーツ界の累積された積弊に沈黙したり生ぬるい態度を示したりしてきました。スポーツ界の誤った慣行と構造に対する大々的かつ根本的な変化は、もうこれ以上遅らせることができません。与野党を問わず、国会がスポーツ界の根本的な構造改革に積極的に乗り出すことを要求します。

忘れもせず、また黙りもせず、「彼らの罪を明らかにして欲しい」という故崔スクヒョン選手の要請を記憶し答えなければなりません。これは、市民の持続的な関心の下でのみ可能です。今日この場を共にした私たち市民社会、人権、女性、スポーツ団体は徹底した真相調査と責任者の処罰、そしてスポーツ界の根本構造改革のためにあらゆる努力を尽くすことを誓います。

徹底した真相調査、責任者を処罰せよ！

独立性、専門性、信頼性、責任性が保証される真相調査団を構成しろ！

大韓体育会李ギフン会長はすぐに辞退せよ！

文化体育観光部と大韓体育会はスポーツ暴力根絶とスポーツの構造改革のために

スポーツ革新委員会の勧告を履行せよ！

21代国会は真相調査、責任者の処罰、体育界改革のために努力しろ！

2020年7月6日(月)

故崔スクヒョン選手の最後の要請に答えるために集まった団体一同

(文化連帯代替体育会、正しい体育教授会、スポーツ人権研究所、人権とスポーツ、全国体育教師の集まり、若いスケート人連帯、体育市民連帯/京畿障害者自立生活センター協議会、光州人権誌「活発」、国際民主連帯、金浦障害者夜学、ナヤ障害者人権教育センター、労働党文化芸術委員会、ノドゥル障害者夜学、ノドゥル障害者自立生活センター、(社)黄色い野原、タサン人権センター、大韓曹溪宗社会労働委員会、ブラックリスト打破と公共性回復のための演劇人会議、ソウル障害者人権映画祭、性的少数文化人権連帯ピンクのスカート、エコファーム、女性環境連帯、芸術大学生ネットワーク、人権運動スペース弓、人権運動ネットワーク・パラム、人権運動サランバン、人権財団サラム、障害女性共感、障害と人権足裏行動、障害者学びの場広いマダン、障害者自立生活センター・パン、障害者差別禁止推進連帯、障害解放烈士団、全国不安定労働撤廃連帯、全国女性連帯、全国障害者親連帯、全国障害者夜学協議会、全国障害者差別撤廃連帯、カトリック男性修道会正義平和環境委員会、カトリックイエズス会人権連帯研究センター、韓国YMCA全国連盟、韓国脳病変障害者人権協会、韓国性暴力相談所、韓国女性団体連合、韓国女性の電話、韓国障害者自立生活センター協議会、韓国障害フォーラム(KDF)、行動する性少数者人権連帯、亨命財団円仏教人権委員会)

02 ハンギョレ 2020.7.2

【 殴打、暴言にパン拷問まで...誰も崔スクヒョンを助けなかった 】



国家代表と青少年代表としてプレーした 23 歳のトライアスロン(鉄人3種競技)の選手崔スクヒョンさんが2013年、全国マリンスポーツ祭典に参加し、金メダルを首にかける様子。

高チェスクヒョン選手遺族提供

告訴事件は罰金刑で終わるようだった。加害者は厚かましく動き回った。死の外に抗弁する武器がなかった。監督とチームドクター、先輩の殴打と暴言、脅迫、仲たがいで仲間外れとなった崔スクヒョン(22)。2日、同僚の話を聞くと彼女の自殺(6月26日)は私たちの社会の他殺だった。死ぬ前に母親に送った最後のカカオトークメッセージは「彼らの罪を明らかにして欲しい」の「彼ら」は私たち皆であった。

トライアスロン青少年国家代表を経て、実業最高の慶州市役所に入団した崔スクヒョン。水泳・マラソン・自転車に精通しなければならない、その名も「鉄人3種」だが、鉄人は持ち堪えられなかった。彼女の死に号泣した元慶州市役所選手は「とても優しく純だった。両親は農業をされている。周辺の記者一人でも知っていれば...」と言葉を詰ませた。

慶州市役所トライアスロンチームは国内最強のチーム。過去に国体で7連覇をし、国内唯一アジア大会メダリストが所属している。しかし、トライアスロン選手たちにとっては、悪名高いところである。10余年前にもある選手が睡眠薬を飲み自殺を試みたことがある。選手たちの表情はいつも暗かった。

崔スクヒョンが残した録音記録に糸口がある。チームメンバーとの食事の席で炭酸飲料を注文したという理

由で 20 万ウォン分のパンを食べさせる、体重調節の失敗で 3 日間食事抜き、スリッパで頬叩きなどが代表的である。宿泊施設で一緒に生活している古参であり、アジアゲームメダリストの先輩からはさらに強い圧迫を受けたことが分かった。

結局、昨年末に慶州市役所から釜山市役所にトレードされたが、新しい場所でも平坦ではなかった。周辺の話聞いてみると、釜山市役所の方にも告訴取り下げを要求し、慶州市役所の同僚たちと通話しながら、辞表を出した監督がまだ闊歩しているという話を聞いてショックを受けた。

過去に慶州市役所で共に走った仲間たちと一緒に告訴したが二人は取り下げをし、トライアスロン連盟や大韓体育会の真相調査結果も不明確だった。断崖絶壁に一人残った孤立感で 22 歳の青春の選択は命を捨てることしかなかった。警察から事件を渡された大邱地検は女性児童犯罪調査部に割り当てて捜査中だ。

一方、この日のムン・ジェイン大統領は故崔スクヒョン選手事件に関し「きちんと措置がされなかったのは、本当に問題だ」と再発防止対策を徹底的に立てろと指示した。文化体育観光部は崔ユンヒ第 2 次官を団長とする特別調査団を構成した。崔選手のカカオトークメッセージを公開した利用未来統合党議員は暴力の被害を受けた体育人の保護条項などを盛り込んだ別名「崔スクヒョン法」（国民体育振興法改正案）を準備している。シム・サンジョン正義党代表はこの日、「スポーツ界の暴力を根絶するための第 2 のミートゥー運動が開始される必要がある」と述べた。

*出典：http://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/952037.html

03 京郷新聞 2020. 7. 4

【 “崔スクヒョン選手 SOS” に傍観、今出る慶州市、大韓体育会 】

故崔^{チエ}スクヒョン選手の悔しい死が知られて怒りが大きくなると崔選手の「助けを求める声」を無視した機関が今になって出ている。

去る 3 日朱^{ジュ}ナクヨン市長が哀悼文を発表した慶州市役所は崔選手の家族が常習殴打過酷行為について請願を出していた機関だ。崔選手の被害を知らせた未来統合党の李ヨン議員によると、崔選手の父親が提起した請願に慶州市役所側は「そのまま告訴しろ」など誠意のない態度を見せた。

慶州市役所は一步遅れて「強力な措置」（朱市長）を約束した。しかし、いまだに「チームドクター」と呼ばれたスポーツ処方士と慶州市は「契約関係がない」という点を強調している。朱市長は「チームの解体をはじめ強力な措置と予防策を講じていく」と言いながらも「暴行の当事者であるチームドクターとは慶州市との契約関係は無かったが追加調査の後、告発する計画だ」とした。しかし、今回の苛酷行為事件の加害者に指名された彼らの中には、いわゆる「チームドクター」だけでなく、慶州市役所監督も含まれている。崔選手の訴えを傍観していた大韓体育会も一步遅れて謝罪声明を出し再発防止を約束した。大韓体育会スポーツ人権センターは崔選手の被害申告を受け付けたが、崔選手に「被害立証資料」を提出するよう要求だけ繰り返してきた。

大韓体育会は 2 日、一步遅れて「遺族の方々に心から慰めと謝罪の言葉を申し上げる」とし「加害者は懲戒処分にし、再びスポーツ界に足を踏み入れないようにする」とした。しかし大韓体育会は、2018 年趙ジェボムコーチ暴行事件の時も同じように「反省」と「再発防止の約束」をした。当時の体育会長が「指導者が選手の将来を思うままにして不当な行為を犯すことを根絶する」と約束したことがある。暴力事件の被害者の申告を無視しておいて、市民の関心が高まってから一步遅れて対策を講じると言ってくる「パターン」が繰り返されているのだ。

李ギボン大韓体育会長は趙ジェボムコーチ暴行事件当時、趙コーチを擁護するような発言で辞退世論が高まったが定款を変えて再任に成功した。

*出典：https://m.khan.co.kr/view.html?art_id=202007041853001#c2b

04 スポーツ朝鮮 2020.7.2

【 文体部“故崔スクヒョン選手事件、崔ユンヒ次官団長特別調査団を構成” 】



文化体育観光部（以下文体部）がトライアスロンの故崔スクヒョン選手死亡事故と関連して、2日に声明を発表した。

この日の午後、ムン・ジェイン大統領が崔選手事件に言及し、「選手出身の文体部崔ユンヒ第2次官を中心にスポーツ人権対策を樹立すること」を指示した直後だ。

文体部は「故崔スクヒョン選手の死亡事故と関連して深い哀悼の意を表し、スポーツ政策主務省庁として重い責任と共に今回の事件の真相究明はもちろん、今後このような事例が再発しないように最善の努力を尽くす」と述べた。

文体部は「昨年、スポーツ界ミートゥー事件などをきっかけにスポーツ革新委員会の革新勧告履行などの革新努力を続けている最中に発生した事件で、より一層残念であり、今回の事件をきっかけに韓国スポーツ界が再び骨を削る刷新と自省の努力を傾けるようにする計画」であるとした。

文体部は大韓体育会独自の調査とは別に崔ユンヒ第2次官を団長とする特別調査団を構成し、今回の事案の徹底経緯と問題点を把握し、問題が明らかになった関係者には厳重問責する予定である。特に去る4月の体育会クリーンスポーツセンターに申告が受け付けられたにもかかわらず迅速な調査がされず、選手の保護措置が適切にされなかった部分について徹底的に調査する計画である。文体部はできるだけ早くこの問題に対する総合的な特別監査を実施し、必要であれば司法当局、関係省庁、人権関連機関団体とも協力する方針だ。また、8月に発足予定のスポーツ倫理センターを通じてスポーツ界の不正と人権侵害事例の申告受付と調査、相談、法律支援、実態調査、予防教育などをより独立的かつ効率的に運営する予定だ。

一方、崔ユンヒ第2次官は2日午後、大韓体育会を直接訪問し、今回の事態に関連した経緯の報告を受け、強力な後続措置を要請する計画である。崔ユンヒ次官は「選手出身として、このような事態が発生したことについて誰よりも胸を痛み、怒りを感じる」とし「この事態に対して最も先頭で責任を持って、再びこのような切ない事例が再発しないようにすることであり、後輩選手たちの人権が保障される環境の中で幸せにスポーツに専念できる条件を作るように最善を尽くしたい」と述べた。

*出典：https://m.sportschosun.com/news.htm?id=202007030100031610001835&ServiceDate=20200702#_enliple

05 【関連記事】

朝鮮日報 - 無免許チームドクターが崔スクヒョン暴行、監督たじろぐ「奇妙な関係」

https://news.chosun.com/site/data/html_dir/2020/07/03/2020070301811.html

中央日報モバイル - 自殺前日も SOS 出したが... 崔スクヒョン、6回無視された

<https://news.joins.com/article/23817069?cloc=joongang-mhome-group22>

東亜日報 - 故崔スクヒョン暴行事件一波万波... 慶州市役所選手たち「監督暴行」暴露予告

<https://www.donga.com/news/Society/article/all/20200705/101822737/1>

ニュース TVCHOSUN - “去ってゆく”とした慶州市役所監督、5ヶ月ぶりに「暴行したことはない」

<https://www.youtube.com/watch?v=tVaC1XLwt7I>

スポーツ朝鮮モバイル - 医師協会「トライアスロン選手暴行疑惑チームドクター、医師ではない」

https://m.sportschosun.com/news.htm?id=202007050100042920002755&ServiceDate=20200704#_enliple

マネートゥデイ - 体育会、「故崔スクヒョン選手」加害者処罰... 6日の会議で決定

<https://news.mt.co.kr/mtview.php?no=2020070510443471048>

TV 朝鮮 - 「暴力主導」チームドクター、前職場病院長「彼は病院で掃除の仕事していた人」

http://news.tvchosun.com/site/data/html_dir/2020/07/04/2020070490056.html

デイリーメーカー龍山 - 大韓体育会、申告受けても40日間資料確保失敗... 崔スクヒョン法作る

<http://www.d-maker.kr/news/articleView.html?idxno=26560>

毎日経済 - 吐き気を催すほど怖いスポーツ界の衝撃的な暴力の実態... なぜ？

<https://www.mk.co.kr/news/society/view/2020/07/685440/>

オーマイニュース - “崔スクヒョン選手が死亡、責任者は李ギフン体育会長”

http://www.ohmynews.com/NWS_Web/View/at_pg.aspx?CNTN_CD=A0002655708

朝鮮日報 - “私も角材で叩かれた”慶州トライアスロンチーム相次いで暴露

<https://m.chosun.com/svc/article.html?sname=news&contid=2020070303393>

中央日報モバイル - 監督の言葉信じたトライアスロン協会「崔スクヒョン問題、真剣に見なかった」

<https://news.joins.com/article/23816978?cloc=joongang-mhome-group12>

世界日報モバイル - 故崔スクヒョン選手の父に「告訴しろ」とした慶州市役所... 一歩遅れてチームドクター告発・チーム解体など予防策約束

<http://m.segye.com/view/20200703514653>

世界日報 - 「私に2回殴られた？おまえは毎日殴られなければ」故崔スクヒョンに苛酷な行為したチームドクター行方不明に

<https://www.segye.com/newsView/20200705506277>

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jrlfep@gmail.com